



新川森林組合 総務企画部 企画課 もりおか ゆうだい 森丘 悠大さん

1 地元で、学びを活かせる仕事を

今回ご紹介するのは、新川森林組合で働く若手職員の森丘さんです。大学卒業後に地元に戻って就職し、現在2年目。大学では、環境、地域づくり、観光などを複合的に学ばれ、「地元に関わ



先輩職員の指導を受ける
森丘悠大さん(右手前)

りながら、大学で学んだことを活かし現場に出る仕事がしたい」との思いから、新川森林組合への就職を決意。学生時代から現地調査の機会が多かったこともあり、ほぼ毎日現場に出られている現在も「やっぱり現場に出るのが好き」と話されます。

2 日々、山に入り、仕事と向き合う

森丘さんの主な担当は、造林事業や林産事業における現場管理業務です。森林組合では、職員と現場作業員が協力して仕事を進めており、森丘さんは職員として、施工前後の測量や現場写真の撮影などを担当されています。



植栽した現場での様子

仕事のやりがいについて伺うと、「自分が植えた苗が成長していく姿を見ると、達成感があります」と語ってくださいました。一方、これまで特に苦労した仕事として挙げられたのが、電線の下にある樹木を伐採する“線下伐採”の現場。

「とても急な斜面で、本当に大変でした」と振り返られました。

「毎日好きな現場に出られて、やりがいを感じています。帰ったらクタクタですが」と充実した様子が印象的でした。

3 林業の現場にこそ求められる、“話す力”

お話を伺って意外だったことは、森丘さんが仕事で最も大切にしていることに「話す力」を挙げられたことでした。林業というと黙々と作業をするイメージがありましたが、実際には森林所有者との打ち合わせなど、人と話す機会が多いそうです。「相手にしっかりと説明する力がないと信頼してもらえません。業務を進める上でとても大事な力だと思います」と話されていました。

4 まだまだですが、一人立ちを目指して

「山を歩くだけでも先輩方についていくのがやっとで、自分は本当にまだまだです」と話す森丘さん。実際に現場に同行してみると、森林組合の方々が山を歩き慣れていることを実感します。1年目の昨年は、先輩について現場へ出る日々が中心で、「先輩について山を歩く中で、たくさんのことを学ばせていただいています」と話してくださいました。特に印象に残っているのは、木々の様子から森林の境界を見分ける先輩の姿。「林況を見ただけで境界がわかるのか…」と驚かされることも多かったそうです。今後については、「早く一人で現場を任せてもらえるようになりたい」と力強く意気込みを語ってくださいました。前途有望な森丘さんの、今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

文責 新川農林振興センター森林整備課林政・普及班